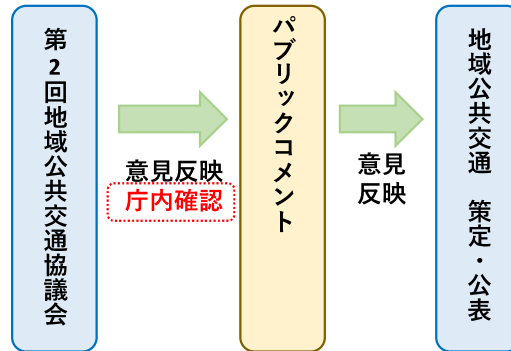


○計画策定に向けた対応状況

- ✓ 前回協議会后、パブリックコメントに向けた、市内での最終確認を実施
- ✓ その段階で、『成果指標』に対する意見があったため、改めて内容の精査を行っている

＜地域公共交通計画策定スケジュール＞



○成果指標見直しの主な理由（市内意見）

【①SDGsの視点の必要性】

- ✓ 将来において、2030年をピークとした人口減少が予想される一方で、新型コロナウイルス感染症や新たな生活様式の定着による外出の減少、社会情勢は刻一刻と変化し続けている
- ✓ この中で公共交通は将来にわたり、あらゆる世代の移動を支えることが求められる
- ✓ 本市が持続可能な成長・発展を続けていくためには、「誰一人取り残さない」というSDGsの理念のもと、公共交通についても迅速かつ的確に課題に対応し、市民の足を確保していくことが求められる
- ✓ 計画策定後の成果は、「誰一人取り残さない」地域社会の実現の視点からも評価した上で、公共交通の維持・確保が求められる

＜SDGsの目指す目標＞

公共交通の維持・確保・利用促進によりGoalsの達成を支える



キーワードは「誰一人取り残さない」

「SDGs」は2015年に国連で採択された先進国も途上国もすべての国が関わって解決していく「2030年までに達成を目指す17のゴール」のことだヌゥ!

国際機関・政府・企業・学術機関・子どもも含めた全ての人がそれぞれの立場から目標達成のために行動することが求められているヌゥ!



さいたま市SDGs普及啓発リーフレットより



＜調整の方向性＞

公共交通、市民の暮らしの足について、「誰一人取り残さない」社会の実現として示せる指標の追加を検討（人口カバー率など）

＜地域公共交通計画の理念＞

地域公共交通計画（今回改正後）

（市町村又は都道府県（市町村と共同）が作成）

まちづくりと連携した地域公共交通ネットワークの形成



地域における輸送資源の総動員

メニューの充実やPDCAの強化により、持続可能な旅客運送サービスの提供の確保

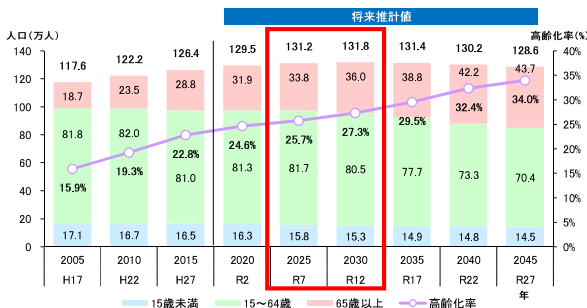
国土交通省HPより

○成果指標見直しの主な理由（庁内意見）

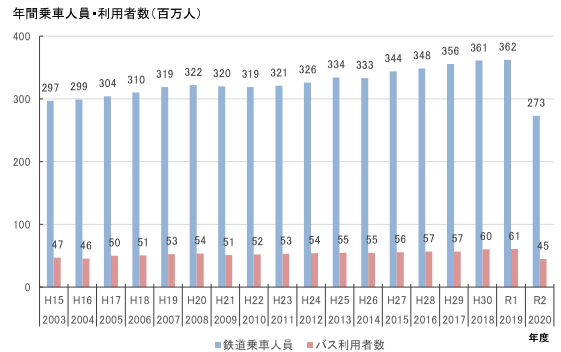
【② 「現状維持」の計画目標の「表現」】

- ✓ 現在の素案では成果指標の目標を「現状維持」の水準として設定
- ✓ さいたま市は未だ人口増加しているが、計画策定時にコロナの影響により、市民の行動・外出が減少していることから、**より市民目線に立った公共交通への利用促進・回帰に繋がる表現**とすることが望ましい
- ✓ また、計画策定後**PDCAによる進捗管理を確実に実施**するために、**目標達成までにどのくらいの状況や環境を目指すかを示す数値目標**とすることが望ましい

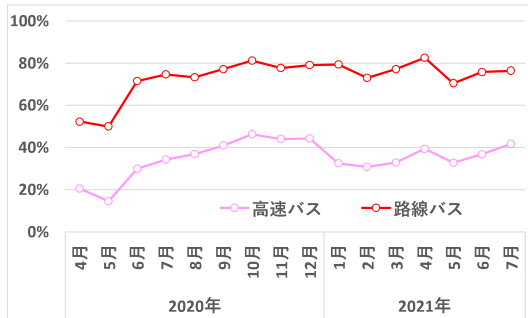
＜さいたま市の人口推移＞



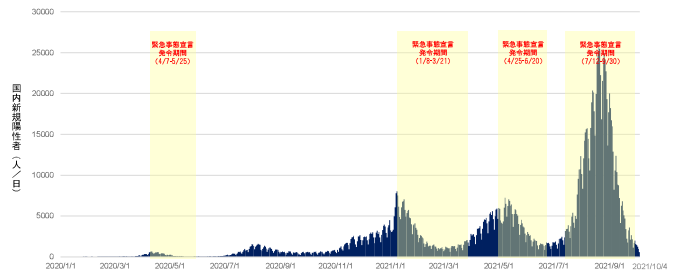
＜さいたま市の公共交通利用者数の推移＞



＜バスの利用者数の変化（全国：2019年同月比）＞



＜新型コロナ感染症の新規感染者数＞



＜調整の方向性＞

KPIの視点による数値目標として、**現状回復を目指す**内容で成果目標の表現を検討

○今後のスケジュール（案）

- 令和4年3月 第3回地域公共交通協議会
- 4～5月（庁内最終調整、協議会への意見照会等）
- 6月 第1回地域公共交通協議会【修正案の議決】
- 9月 議会報告
- 10月 パブリックコメント
- 11月 第2回地域公共交通協議会【計画の議決】
- 12月 計画策定